YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

| 氏 名 | R.I | 学部・学科 | 国際教養学部 |
|---|---|---|---|
| 学 年 | ２ | 派遣国 | アメリカ合衆国 |
| 派遣大学 | ニューヨーク州立大学ストニーブルック校 | | |
| プログラム名 | IEP | | |
| 期 間 | 2023 年　　7 月　　8 日～　年　　8 月　　20 日 | | |

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業初日に、IEP プログラム生全員で英語のテストを受ける。その結果をもとに二つのクラスに振り分けられる。一クラス１０人ほどの少人数授業だったため、先生も生徒もクラスにいるすべての人をお互い認知したうえで授業をする。グラマーライティング、リーディング、スピーキング、リスニングと四つの項目に分かれ、９０分の一授業はそのどれかにフォーカスする。テキストは指定された部分を自分で印刷してくる。各授業ごとに課題を出されていたが、授業のない金、土、日曜日のいずれかに１時間ほどで終えることが出来る内容と量だった。月から木曜は９時から１４時半まで授業で、放課後および金土日は休みなので、英語の演習のレベルや課題の量を考えても、勉強がそこまで負担にはならなかった。逆に言うとフリーの時間の使い方は完全に個人に委ねられるので、そこで友達と話したり、どこかへ遊びに行ったり、英語のスキルを伸ばせるかどうかは自身の積極性による。グラマーとライティングの授業では、英語の主語 S 動詞 V など基礎的な部分を丁寧に確認していく。意外と見落としがちな大文字にする文字しない文字や、副詞と形容詞の違いなど、細かいところが多い。英語での文章の書き方、段落空けや序文、本文、結論など論理的で形式に沿った文章を書く訓練をする。リーディングでは大きなテーマ（実際に 2023 年のプログラムで扱ったのは社会規範、定年後の黄金期、慈善）にそった二ページほどの文章を複数読み、その後質問に答える。たいていは読んでくるのは宿題、質問の答え合わせから授業が始まることが多かった。論理的で数々のデータを使いながら社会問題を説明する文章もあれば、小説的で抽象的な感情や含意をくみ取るような文章を読むこともあった。後者は個人的に難しく、そのような文章を読んできた経験も少なかったため苦労したが問題を解きながら、何度も読みなおしながら、少しずつ理解していけた。スピーキングは主にパワーポイントを用いてプレゼンテーションすることが多かった。主題は、もしあなたが慈善団体を設立するならといったものや、組織の一員として高齢者にあなたが出来るサービスは？など具体的シチュエーションの中で自分だけのアイデアを出すもので、パワーポイント資料も自分で作りながら自分の考えを発表する。クリエイティブさが歓迎されていて楽しかった。リスニングではテッドトークを聞いたり、微妙な発音の違いを修正したりする。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

全体を通して、テーマが教育格差、慈善、長寿、社会規範など身近にあり、私たちが生きていく上で考えざるを得ない内容のものだった。社会問題に主にフォーカスしていたため、日常生活のシンプルな感情（うれしい、おいしい、たのしい、かわいい）では言い表せない、問題を指摘したり、批評したりするための単語を実用的に使うことが出来る。日本で英語教育を受けた大学生は、私も含め、複雑な単語を知っていても、それを使う機会やそれを使って何かを伝える環境を手に入れないままであることが多いかもしれない。留学に行き、世界に広がるあらゆる問題を友達と考えてみる機会は、そうした言葉のアウトプットに最適であったし、同じ問題に対する他の国で生まれ育った、年齢も、性別も違う人の考えを知ることが出来る。テッドトークや先生の模範的な授業中の話し方から、英語で物事を説明するときの様式を学ぶことが出来た。論理的で納得感のある、よみやすい文章を作るにはどうしたらよいのかを学び、授業中の発言やプレゼンテーション、ライティングを通じて、その様式に従って自分でもアクションを起こしていく。インプットアウトプットを繰り返しながら英語でのスタンダートを感じ取り自ら適応しようとする経験を得られた。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

日本の授業と比べて授業中の生徒の発言が多いように感じられた。成績の評価基準に出席というものがあるが、日本の場合それは時間どおり席に座っていること、アメリカの場合、自分から誰かに何かしらの影響をおこすことのように思える。誰でもないあなたの考え、その理由を問われる機会が多かった。どうして、自分の、私の、あなたのといった個が要求されるのか、なぜ自分の意見というものが必要なのか考えてみると、それらが、現状を維持するのではなく、何かを前へ進もうとするときに必要な力になるからなのかもしれない。変化を望むから個が必要とされていると感じた。アメリカに来て授業を受ける前はそんなことは考えたことがなかったので、授業内外の経験が私にそんなことを思わせた。日本とは違った積極性を持つアメリカで、自分を表現できることの幸せを感じた。革新的な姿勢、保守的な姿勢、どんな姿勢にも優劣はないが、自分を表現する喜びを知れたことは、その方向性での自分の選択肢を増やすように感じる。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

これまでの私の授業態度を振り返ると、授業は受けなければいけないから最低限受ける。授業は聞き流す。常に授業の終わりを待っている。高校でも大学でも、普段からそんな態度だったように思える。そんな態度では通用しないアメリカで、授業を受けて自らを表現する幸せを知れた。自分の決めた分野に心を開きながら受け入れ、知りたいことを学ぶ。自分の中の一要素として落とし込み、自分なりのアウトプットを起こす。そんな態度のほうが大学生活は楽しいのではないかと思った。そう思えたことがちょっとずつ自分を変えるかもしれない。その意味で留学はまだ終わっていないように思える。